



ややこしくなるとのことで、観光ビザで入国すると言われました。  
私も観光ビザで入国しましたが、特に何の問題もありませんでした。  
エクアドルの観光ビザは大使館での手続きなどがなかったため、私も東京の在日エクアドル大使館に行かずに済みました。  
それでもエクアドルの首都のキトにある在エクアドル日本国大使館に3月上旬辺りからビザの手続きなどをして、入国目的を留学、したがって学生ビザに変更する予定です。

#### 【現地での生活】

2月はまだ学部の授業はなく、3月から始まる予定です。  
元々学部の授業は3月11日に始まる予定でしたが、履修登録のシステムの問題などで、3月20日から始まることになりました。  
日本でこのような事態が起きれば大騒ぎになると思いますが、こちらでは誰一人焦っておらず、むしろ寛容的です。  
ラテンアメリカの人たちはそういったことを気にせずにどんなことも前向きに考えるのが本当に上手です。  
私たち日本人が見習うべきところもたくさんあると思います。

また、現在は学部の授業とは別で、大学付属のスペイン語コースの授業に参加しています。  
追加料金は掛かりますが、留学先の環境に予め慣れることができるうえ、今後現地でコミュニケーションをしていくうえでも役に立つと思い、受けることにしました。  
授業では自分が今まで知らなかったスペイン語に関することやスペイン語で勘違いしていたことも分かり、本当に役に立っています。  
スペイン語コースの授業は2月と3月にかけて参加する予定ですが、月間報告書で分けて授業の内容などを書くとなんか楽になるので、3月にまとめて書こうと思います。

2月27日にはクエンカ大学の留学生のオリエンテーションがありましたが、他の留学生は全員他のラテンアメリカの国の人やヨーロッパの人で、アジア人は私だけでした。  
それでも皆優しく接してくれてこちらも安心しました。  
日本のこともよく聞かれましたが、留学前に予め日本の文化などがある程度勉強していたため、答える分には問題ありませんでした。  
やはり海外に行くと自分の国のことは必ず聞かれるので、完璧でなくても日本のことはある程度知るべきだと思います。  
今は留学生活が始まったばかりですが、現地の友達も少しずつ増えて生活にも慣れてきています。

#### 【その他】

クエンカは標高が2500メートル近くあり、着いた直後は高山病にかかり、呼吸がしづらかったです。  
それでも時間とともに慣れてきて、今では息苦しくなることはほとんどありません。

クエンカでは日本人どころかアジア人がほとんどいませんし、現時点でクエンカ大学で私は唯一のアジア人の学生だそうです。  
そのため、クエンカに着いてからは日本語を使わない日も当たり前になっています。  
それでも私は日本人がいると却ってプレッシャーになったりして困るタイプなので、留学するからには今の環境で本当に良いと思っています。  
ごくまれにアメリカ人に会ったりして英語を話すことはありますが、基本的には常にスペイン語です。  
日本語は全く話していませんが、私は日本人がいなくて日本語が話せないことに今のところ一度も困ったことはありません。  
むしろ海外に留学するからには現地の言葉も身に付けたいので、はじめをつけるためにも絶好の環境だと思います。

休みの日などに現地の博物館によく行きますが、常に面白い発見があります。  
例えば場所によっては入場料が無料ですし、エクアドルはインカ帝国の領土でもあったため、それに関する展示品もたくさんあります。  
このことを通して、個人的にラテンアメリカでは世界的にも博物館が発展していると思います。

私は最初の一週間は現地のホストファミリーの家でホームステイをしていましたが、大学まで遠かったり立地のこともあって、その後は大学の近くのコンドミニアムで生活しています。  
大学に近いだけでなく、宿泊費が安かったり自己管理する力も身に付くので、個人的には今の生活の方が良いと思います。

しかし、これもホームステイをして分かったことなので、ホストファミリーには感謝していますし今でも連絡は取り合っています。

クエンカに着いて少し経ってから一時期体調を崩しましたが、休み方を工夫したところ、今ではすっかり元気になりました。海外で体調を崩すとやはり不安になりますが、治ると後から良い経験だと思えますし今後に役立ちます。今でも油断している訳ではないので、周りのことにも程良く気を付けつつ、留学生生活を頑張っていこうと思います。

ラテンアメリカでは物価が安い国が多いですが、クエンカの場合は物によります。

例えば安いところだとバナナが一本15円でコーヒーが一杯80円などですが、本屋では高さ20センチで厚さ1センチの本が一冊2000円することはよくあります。

また、安ければ良いという訳でもありません。

例えば半径30センチで一切れ100円のピザもありますが、私はこれを初めて食べた時に体に少し異変を感じました。

幸い軽く済みましたが、売り物とその値段の仕分けも何かしらコツが要ります。

私もある程度生活に慣れたらそれを仕分けるコツも大体分かり、それからは先程のピザのような問題はほとんどありません。



### 【スペイン語コース】

クエンカ大学付属のスペイン語コースを2月から3月にかけて受講しました。

修了証を手に入れるために求められる48時間を授業に出席したうえで中間試験と最終試験である程度の点数を修めて合格するようなシステムです。

ちなみに私は日本でスペイン語の基礎を予めある程度マスターしていたせい、A1・A2・B1・B2・C1（レベル:低→高）と分けられたレベルの中で一番上のC1にいました。

レベルを測るための判定試験も個人的には思ったほど難しくなく、手応えとして大分答えられました。

最終的には試験にも合格し、修了証も手に入れることができました。

システムの問題などによって手に入れるのは少し先になりますが、これは恐らく今後でも有利になると思うのでこの調子で頑張っていきたいです。

このことはスペイン語コースで私を支援して下さった方々にも大変感謝しています。

また、どの言語でも同じですが文法はかなり大事です。

やはり文法（特に基礎）を習得していないと幼稚に思われることもあります。

その中でも文法は基礎であればあるほど大事です。

例えばスペイン語には動詞の活用形がとにかく多くてそれに苦戦する学習者も多いです。

私もスペイン語を学び始めた頃の1年次生の時に同じことに苦労したことがあるのでその気持ちもよく分かります。

しかし避けては通れない道なので学習するうえで全ての動詞の活用形を習得することはやはり大前提です。（留学する場合は尚更）

他にも数字も苦戦しがちですが、これも基礎なので習得しないと西暦もろくに言うことができず、スペイン語でできることも大分限られます。

私もこれに苦労しましたが、これらを効率良く習得するうえでおすすめの方法があります。

それはスペイン語を習慣付けることです。

私は1年次生の夏休み辺りからスペイン語でネットサーフィンをしたり、ラテンアメリカのラジオを聞くように習慣付け始めました。

最初は当然分からないことも多かったのですが、続けているうちにコツも分かってスペイン語が実際にどのように使われているかも段々分かってきます。

もちろん大学ではテスト前にスペイン語の勉強などはしましたが、私はどちらかと言うと積極的に使う方に力を入れていました。時間が経って気が付いたら習慣になっており、生活の一部にもなっていました。

結論を言うと外国語では理解力もですが、それより使いこなせることが大切です。

人によって個人差は当然ありますが、大学などで外国語を（特に専攻として）学習している方々に授業だけでなく外でも積極的に使うことをおすすめします。

### 【履修登録の問題】

今年から履修登録のシステムが変わり、様々な問題が発生しました。

例えば先月の月間報告書に書いたように授業開始日が延期になったり、授業が突然休講になることも多々ありました。

現地の学生でも履修登録を終えるのにかなり時間がかかりましたが、私を含めた留学生の多くは未だにできていない状態です。

それでも授業には参加できるのでその面では今のところ大丈夫です。

授業が急に休講になることもよくあったため、受講時間数が短くなったり授業の内容があまり進まないこともよくありました。

しかし少しずつではありますが、今では改善している感じです。

### 【留学先の授業】

私は現在日本語でいう哲学部の歴史地理学科の授業を受講しています。

私自身もラテンアメリカの歴史には大変興味があり、暗記力にもそこそこ自信があるのでエクアドルに来る前でもラテンアメリカ史の歴史上の人物の名前は100人以上挙げられましたし昔覚えた日本の47都道府県やアメリカの50州以外にもメキシコの32州も留学前には全て覚えました。

今いるエクアドルの県もできれば全て覚えたいと思います。

当然まだまだ未熟なところもありますが、海外に留学すると物事を一人で判断する力も日本より身につきますし自分でも毎日が勉強のように感じます。

この調子で今の留学も頑張っていこうと思います。

留学先ではエクアドルの歴史とアメリカ大陸の歴史の授業を履修していますが、授業の雰囲気はともかく、自分の興味がある内容なので正直楽しく感じることもあります。

5月辺りからはうまくいけば英語の授業も履修する予定です。

#### 【現地での生活】

エクアドルのクエンカに来て2カ月ほど経ちましたが日本人には1カ月以上会っていません。

自分でもこんなに会わないのは初めてなので正直不思議な気持ちです。

それでも今は勉強しに来ているので個人的に日本語を使うのは最低限で十分だと思っています。

毎日スペイン語を使って生活していますが、たまにもどかしく感じることもあります。

しかしそれも自分で何が足りなかったかを分析して辞書などで分からない単語や表現を調べることも習慣付けています。

これも自分ではもどかしさをバネと捉えて上達させるように前向きに考えています。

今のところたまに体調が悪くなることはあっても生活する分には問題ないです。

この調子で無理のないように頑張っていこうと思います。

#### 【その他】

今回の「その他」は忙しくなってきたこともあって前より省略しますが、一つだけ簡潔にまとめます。

エクアドルは日本ではあまり馴染みのない国ですが、実は深い関係があります。

例えば今から100年前には野口英世がエクアドルのグアヤキルに黄熱病の研究のために訪問しました。

現在の1000円札の野口英世の肖像画も実は100年前にグアヤキルで撮影されたものです。

そのうえグアヤキルには野口英世の名前が使われた通りや学校があります。

実際1年前も日本とエクアドルの国交樹立100周年でそれに関する行事が両国でたくさん開かれました。

私も今はエクアドルに留学していますが、両国の関係を深められるように貢献したいともうっすら思っています。

いずれにしてもこの調子で今の留学を頑張っていこうと思います。



今でも新しいことを始めて慣れるのに苦勞(?)しているところもありますが、上記のことは元々知っているのですこまで焦っていません。

新しい環境に適応するのに人によって個人差がありますが、私が見ている限り、早いからと言って良い訳ではないと思います。というのも、順応性が高くて新しい環境にすぐに慣れてもうぬぼれてしまい、後から様々な問題で困る人も私は何人か見たことがあるので、そこは自分のペースでやって自己分析したうえで目の前のことをこなせばいいと思います。そのうえ、新しい環境に適応するのに時間がかかる人でも決して悪いことばかりではないと思います。新しい環境に慣れるのに時間がかかる分、周りの状況もよく観察できるのでその地の情報も吸収しやすいですし、いつの間にかその環境に適応していることも良くあります。やはり人によって自分に合っていることと合っていないことがあるので、留学する面でも他の留学生がその人なりの自己管理で上手く行っても自分には合っていない可能性があります。従って、その人のやり方を参考にするのは良くてもうのみにしないことをお勧めします。

#### 【エクアドルのニュース事情】

私はエクアドルに来てよく現地のニュースを見ています。日本でもよくニュースを見ていたこともあって、恐らくその名残もあると思います。また、ニュースは日本でも話すスピードが速いのと同じで、外国語を上達させるうえでもとても効果があります。他にも教養の知識も身に付くので、これから海外に留学する人は日本でもニュースを習慣的に見ることをお勧めします。これは留学先でも必ず役に立ちます。しかし、ある日ニュースを見てみると、日本語で大統領という意味の「Presidente」という単語が「Presidentente」と書かれてあり、スペルミスがあることに気が付きました。日本ではニュースや新聞で一つでも誤字脱字があると数十分後か翌日にその訂正のために謝罪しますが、エクアドルではこのようなことが起きても誰も謝らず、ニュースが続行します。聞いた話ではエクアドルの新聞でもしょっちゅう誤字脱字があるそうです。それでも日本のように誰も謝らず、何事もなかったかのように新聞も刊行され続けます。個人的にこれは国独自の習慣で、興味深いものだと思っているのでむしろ面白い発見だと思っています。

#### 【エクアドルの休日やデモ】

エクアドルはキリスト教の国ということもあり、宗教行事がよく祝われます。例えば4月の下旬にもセマナ・サンタという日本語で言う聖週間が祝われましたが、これと同時にあることが起きます。それは、外の店やレストランの9割が閉まるということです。エクアドルを含めたラテンアメリカの国々では自分の宗教や家族を大切にすることが多いこともあり、仕事をする一方で自分のこと(いわゆるプライベート)も大切にすることが多いです。当然その時に買い物ができなくて不便に感じることもありますが、個人的にこれはエクアドルの国民性なのでむしろ尊重して大袈裟な表現かもしれませんが素晴らしいことだと思います。

また、エクアドルを含めたラテンアメリカ諸国ではデモや政治活動がよく発生します。やはりこの地域は貧富の差も激しいので、自分の国に不満を持つ人も少なくありません。私もエクアドルに来てたまにこうした抗議活動を見かけますが、極力近づかないようにしています。というのも、ラテンアメリカは日本を含めたアジアから遠いこともあり、アジア人も他の地域に比べて少ないので容姿の時点でもかなり目立ちます。現地の人も同じですが、やはり海外の抗議活動に下手に近づいても良いことはありません。実際現在留学しているクエンカ大学でもこうしたデモや政治活動が原因で授業が休講になることもあります。たとえそのような活動に興味があっても絶対に近づかないべきです。

#### 【その他】

先日エクアドルの学生ビザの書類の手続きをするために首都のキトにある日本大使館に行きました。その時に約1カ月半ぶりに日本人に会ったので、最初に会った時はかなり動揺したせいか、数秒ほど言葉が出ませんでした。それでも向こうも親切に対応してくれたのでこちらも段々落ち着いて安心しました。海外に行くとは日本では経験できないこともたくさんあるので、これもある意味その一つだと思い、今思えば貴重な体験だと思います。



また、ラテンアメリカにはスペイン人が入植するずっと前から住んでいる先住民がいます。彼らの多くは決して裕福な生活ではないものの、明るく楽しそうに暮らしているように見えます。このような地域ならではのことで、ラテンアメリカにはよく先住民が経営する薬草による治療サービスがあります。この薬草は自然のものということもあり、現代の薬のように副作用はありませんしこのサービスの多くは一回数百円で、とても安いのです。

また、これは現地の人だけでなく、こちらに住んでいる外国人や外国からの観光客の多くの人も利用します。私も体調や気分があまり優れない時に時々利用しますが、治療が終わった時はとても清々しい感じがします。人間は自然から生まれたということもあり、体調や気分を回復させるにも化学的なものではなく、自然のものに越したことはないと思います。

私はラテンアメリカに留学する人に体調や気分が優れない時はこの薬草治療のサービスをお勧めします。日本では経験できないことでもあるので、これからラテンアメリカに行く人も是非一度は試して欲しいです。

最後に、今までの月間報告書でも書いてあるように、クエンカ大学では履修登録のシステムなどが変わったせいで大学カレンダーの内容も変わっています。

例えば元々予定されていた連休の日がちが変わったりと、先が思いやられることもいくつかありますが、海外に行くと日本と文化や気候などの全てが変わるので私もこれはエクアドル独自の文化で興味深いものだと考えています。



私の試験の結果がどうであれ、応援してくれている人もいるのでその人たちの期待に応えるために自分が努力している姿はこれからも失わないようにしていこうと思います。

#### 【韓国語の授業】

ある日クエンカ大学付属の語学学校に韓国語の授業が無料で提供されていると知りました。

他の英語、イタリア語、中国語などの授業は全て有料で韓国語の授業だけは無料だったので意味チャンスだと思って履修することになりました。

というのも、私は中学生と高校生の時に韓国語を独学で勉強したことがあり、リスニングとスピーキングはともかくハングル文字の読み書きはある程度修得していたのでその時のおさらいも兼ねて一番下のレベルの授業を選びました。

やはり一番下のレベルということもあってまずは基礎的なハングル文字の仕組みや読み書きの練習をしますが個人的には基礎であっても新しい発見があったので面白く感じました。

この調子で今話せる日本語、英語、スペイン語以外に韓国語も習得できればいいなと思います。

#### 【大学でのデモや学生抗議】

ここ最近留学先のクエンカ大学でよく学生や市民によるデモや抗議が起きます。

私はエクアドルでは外国人であるうえにラテンアメリカで数少ないアジア人でもあってただでさえ目立つのである日授業を休まざるを得ない日がありました。

翌日その授業の先生にこのことを話したところ授業は問題ないし大丈夫と言われましたが、やはり仕方ないことだと思います。

というのも、現地の人のお話によると現エクアドル大統領に不満を持つ人が最近増えているらしく、デモや学生抗議も増えているそうです。

確かに不満を持つ人もいて何とかしたい気持ちもありますが、立場的にまず不可能で危険なのでやはりそのままにせざるを得ません。

#### 【クエンカのK-POPのイベント】

ある日現地の友達から自分たちで開催するK-POPのイベントがあるから是非来てと誘われました。

聞いた感じ面白そうだったので、参加してみることにしました。

その結果、そのイベントが楽しかっただけでなく、面白い発見もたくさんありました。

そのイベントでは主にK-POPに関するプログラムが開催されましたが、出店もいくつかありました。

そこには韓国に関連した物だけでなく、日本のアニメ関連の物やいくつかの日本食も売られていました。

特に印象的だったのが日本では1本たった10円のうまい棒が1本200円で売られてたことです。

とても驚いたので写真を撮ろうとしたところ、既に売り切れていました。

残念な気持ちでしたが一方、200円も払ってまでうまい棒を1本買う人もいるんだなと思い、何気に感動もしました。

#### 【大学行事の一環で行ったガラパゴス諸島】

私はクエンカ大学の観光学科のプログラムの一環として4泊5日でガラパゴス諸島に行きました。

ガラパゴスはエクアドル本土から1000キロも離れているせいか、飲料水が十分でなくWi-Fiも機能しないことがよくありました。

また、ガラパゴスに入島する際は手数料などを支払うことが義務付けられています。

本土から来たエクアドル人も支払いますが、外国人は更にたくさん支払うことになっています。

そのこともあってクエンカ大学のプログラムでガラパゴスに行く前にも私は現地の人よりたくさん参加費を支払いました。(しかしその中に往復の交通費やホテル代、食費なども含まれていたのである意味得した感じもしました)

ガラパゴスは生活するうえで不便に感じるかもしれませんが、良いところもたくさんあります。

例えば、自然が豊かでアシカやイグアナなどの野生動物も警戒心がほとんどなく、人間が近くにいても全く逃げませんし、人が渡る橋や椅子にもリラックスした状態で寝そべっています。

ガラパゴスでのルールとして野生動物には2メートル以上近づいてはいけないことになってるので触ることはできませんが、このような世界もあるんだなと知ってとても感動しました。

ガラパゴスにはそこ独自で進化を遂げた生き物がたくさんいてゾウガメ、イグアナ、アシカ、鳥など日本では絶対に見れない生き物がたくさんいてそこでしか分からないこともたくさんあったのでとても印象的でした。

様々なことが整備されているせいか、ラテンアメリカでは目立つ日本人を含めたアジア人もガラパゴスでは夜中に一人で普通に外出していましたが、別荘もたくさんあったので個人的には恐らく日本と同じぐらい治安が良い所だと思いました。

ある日友達と一緒に夜海辺を散歩していたところ、橋からウミガメが泳いでいるところを見ました。

他にもシュノーケリングなどをして新しい友達もたくさんできたのでとても良い思い出になりました。

ガラパゴスは海に囲まれていることもあって魚介類が豊富でしたが、魚介類も日本のようにとても美味しかったです。

今回ガラパゴスに初めて行ったことにより、今の留學生活のモチベーションになっただけでなく、自分の視野や価値観も広がって今後の人生にも繋がりそうです。

【たまたま知り合ったエクアドルのJICAの隊員】

ある日現地の友達と数人の日本人の友達と会うから良かったら一緒に来てと誘われました。

最初は留學していることもあってそこまで真剣に日本人に会いたいと思ってはいませんでした。実際に会ってみたところ、様々なことがありました。

例えば、自分の母国語である日本語がたまに出てきませんでした。

というのも、最近日本人にほとんど会ってなかったせいか日本語を使う機会もまずなかったので日本では普通に話してた日本語が出てこなかったのが自分でも驚きました。

出てこなかった日本語の単語に関してはその意味を説明してこの時の日本人から教わって何とか思い出したりと、ちょっと変わった感じでした。（例えば当事者という単語であれば、その話題における何かを実際に持つてると意味を自分なりに知恵を絞って説明しました）

この時に初めて知り合った数人のJICAの隊員も海外にいることもあって視野が広がったので私に対しても親身になってくれてすぐに打ち解けました。

この経験を元に、留學する際は現地の人たちと交流していくことも大事ですが、場合によってはその国の日本人との繋がりも大事だということを実感しました。



### 【留学先の授業】

エクアドルのクエンカに来て4カ月程経ち、現地の生活にも時間とともに大分慣れてきました。

そのこともあって留学先の授業の雰囲気や仕組みも徐々に分かってきて段々ついていけるようになりました。

「エクアドルの歴史」と「アメリカ大陸の歴史」の授業で日本と関連したプレゼンをしましたが、どちらも大好評でした。

また、プレゼンが終わってからいくつか質問がありましたがこれに関しては逆にこちらが日本について学ばされることがありました。

例えば「今の日本の天皇はどのような政策を出しているか」という質問がありました。

というのも、私が留学している間に前の天皇が退位して新しい天皇が即位したので表面は知っていたものの、日本にいるわけではないので詳しいことは分かりませんでした。

とりえず何らかの形で説明しながら答えられたものの、エクアドルを含めた外国の人たちが日本の何を知りたがっているかなどが分かり、こちらにとっても勉強になりました。

韓国語の授業でも色々学んで習得している一方、スペイン語で韓国語を学ぶのは日本語で英語を学ぶのと次元が違うことも事実です。

しかし私は元々異次元を体験することに興味があり、海外ではこのような機会がより多くあるので今のところ韓国語の授業を履修して後悔はしていません。

また、先日クエンカ大学付属の語学学校が主催する韓国語の他に英語、フランス語、ポルトガル語、中国語などの様々な言語の授業を履修する人たちによる言語交流のようなイベントが開催されました。

他にもダンスなどのコンサート、各国や地域の文化紹介（フランス語であればフランスの文化）や郷土料理の無料試食サービス、伝統衣装のコスプレなどがありました。

特にフランス語の授業が提供していた試食サービスではマカロンやエクレアなどが提供されていて実際に試食してみたところ、とても美味しく他の言語の授業の試食サービスも無料である意味食べ放題でもあったので気が付いたら食べ過ぎてしまいました。

やはり食べたものも栄養面では良くないため、イベントが終わってしばらくしたら少しイライラ気味になったりしました。

それでも時間とともに治ったので今振り返れば「そんな日もあるか」といった感じです。

### 【英語とスペイン語】

私は最近今の生活に慣れてきたこともあって英語の勉強も含めて英語も少しずつ本格的に使うようにし始めました。

クエンカには仕事をリタイアして永住しているアメリカ人がたくさんいるので英語を使う機会も何かとあります。

そのうえ私は自分の将来のことも考えると英語もやはり必要になると思い、語源が近い英語とスペイン語を同時に学習して同時に上達させるようにもしています。

その結果、様々なことが分かって新しい能力も身に付きました。

例えば英語とスペイン語の単語や仕組み（例えば名前）が前より比較できるようになりました。

例（英語/スペイン語）：Charles/Carlos, Mary/Maria, Joseph/José, Elizabeth/Isabel, Willian/Guillermo, Helen/Elena

他にも韓国語はともかく、日本語と英語とスペイン語の3か国語を使い時に応じて瞬時に使い分けられてごっちゃんになることも大分減りました。

また、この能力は習得したばかりのことであるので今でもたくさん使い分けたりすることによって疲れやすくなると思います。

しかしこれも慣れだと思えるのであまり考えすぎず自然と疲れることも減れば良いなと思います。

### 【留学先での繋がり】

私は現在の環境に大分慣れてきたこともあってできることも増えてきています。

そのこともあって今いるところで現地の友達を増やすだけでなく、留学先の先生との繋がりも増やしています。

ある日留学先で仲良くなった先生の研究室を訪問したところ、先生が私が留学を含めて様々なことで頑張っていると思ったせいか私に分厚いスペイン語で書かれた地理の本を贈呈してくれました。

私もこれがきっかけでモチベーションが上がってこれからも悔いのない留学だと思えるように頑張っていこうと思えるようになりました。

友達に関しても現地で開催されているイベントや既に仲良くなった友達を通して新しい人と知り合ったりと工夫しています。

これは個人的な意見ですが、留学してできた友達はこれからも大切にできると思います。

自分の将来に繋げるためにも私は今の環境でこれからも自分の視野を広げていこうと思っています。（たまには息抜きもしていますが）

また、これは繋がりとしおかけ離れますが私の留学先のクエンカ大学も大学であるため時々他のラテンアメリカ諸国からの研究者が来て講演や学会が開かれます。

先日もちりから来ていた何人かの研究者に話しかけて自分が今歴史学の授業を履修していることもあってチリの歴史上の人物を何人か言ってその人たちを知っているか聞きました。

すると、もちろん知っていると言われて喜ばれました。

これは今の留学のモチベーションにも繋がってその人たちのような研究者との交流も増えることで自分が今まで知らなかったことも学べて様々な意味で効率的だと思います。

他にも日本にはチリ産のワインがたくさん売られていると話したところ、更に喜んでくれました。

日本とチリはあまり馴染みがないように思われがちですが、ワインの件も含めてちょっとした繋がりを話すだけでもやはり相手からしたら自分の国ということもあって喜ばれます。

今回はチリですが、自分の国（日本）と相手の国の繋がりや関連性のあることを話すとお互い知識も増えるので、これは留学するうえでは尚更おすすめです。

#### 【ラ米の豆知識・チリのクーデターとレディーファースト】

私は今の留学生活に慣れてきたので日本であまり馴染みがないラテンアメリカに関する豆知識を【ラ米の豆知識・テーマ】という名前で連載の形式で自分が今まで培ってきたラテンアメリカに関する豆知識をできる範囲で日本の方々に少しでもラテンアメリカを知ってもらうために始めてみようと思います。

今回のテーマは1973年9月11日にチリで起きたクーデターとラテンアメリカにおけるレディーファーストの習慣です。

この時のチリはサルバドル・アジェンデという当時のチリの大統領の下で様々な政権が動いており、アウグスト・ピノチェという軍人がチリの大統領官邸であるモネダ宮殿辺りを中心にクーデターを起こしました。

それによってアジェンデは宮殿内で自殺して大統領の座もピノチェに奪われました。

また、この日は2001年9月11日にアメリカで起きた同時多発テロ事件と日にちが同じなのでラテンアメリカの9・11とも呼ばれています。

ピノチェがチリの大統領に就任してからも独裁政権が成立してこれに不満を持って抗議していた多くのチリ人の男性が国家警官によって暴力などで虐殺されました。

その一方でチリ人の女性も抗議していました。

しかし国家警官はその女性たちをうかつには殴りませんでした。

というのも、ラテンアメリカの多くの国ではレディーファーストの習慣があります。

やはり国民性の一部である以上、チリ人の国家警官でもその女性たちにそう簡単に手は出せませんでした。

また、私が今いるエクアドルにもレディーファーストの習慣があります。

というのも、私の留学先のクエンカ大学でもとある学科の学科長が女性だったり、とある事務所の所長も女性なのでレディーファーストの習慣があることも伺える他に女性差別という概念が他の国や地域に比べてないため女性が社会で活躍できる場でもあると思います。

実際ラテンアメリカのいくつかの国でも過去に女性大統領を輩出した国もあるのでこのようなことが分かると尚更レディーファーストの習慣が伺えます。

このようなことを通して私は他の人たちがどんな人であれ、人々は皆平等であるべきということを学びました。





**【留学先の授業】**

今月は学期末ということもあって全ての授業で期末試験がありました。試験である以上大変なところはあったものの、今までに履修してきた授業は全て合格して成績証明書も取得することができました。

特に「エクアドルの歴史」と「アメリカ大陸の歴史」はスペイン語のネイティブでない私にとってハイレベルな感じがしました。

しかし自分で提案した日本を絡めたプレゼンは効果があったと思います。（例：日本のキリスト教史、日本とエクアドルの交流史、日本とメキシコの交流史）

私も現地の学生と常に同じスタイルで学ぶ訳にはいかないと思い、留学生である自分の立場を生かして自分の国である日本を絡めたプレゼンを自ら提案したところ、先生からも是非やってほしいと言われてプレゼンの評価も大変良かったです。

この調子で残り半年の留学生生活を悔いなく頑張っていこうと思います。

**【学生ビザの問題解決】**

私は今月下旬にエクアドルの学生ビザをやっと手に入れることができました。

以前までは観光ビザで入国していて期日も8月上旬でしたので不安になることも多々ありました。

クエンカの最寄りアソグレスという場所にあるエクアドルの外務省の支局でも係員の腹立たしい態度などでイライラすることがあったものの、今思えばビザのシステムなどを学べたりしたので今回の経験は今後海外に行くうえでも様々な場面で役に立つと思います。

今回の学生ビザの手続きもほぼ全て自分でやったのでその時は大変だと思ったものの、学生ビザを受け取った時はやることを全て終えてとても安心したせいか、今までのストレスも一気に吹き飛んだ感じがしました。

また、エクアドルはビザの取得が難しい国でエクアドル在住の日本人もほぼ全員ビザで苦勞したことがあると首都のキトにある在エクアドル日本大使館の人から何度か言われました。

中には私より苦勞していた人もたくさんいると聞いて、派遣留学でエクアドルに来ている私はクエンカ大学という受け入れ先があるのでまだありがたい身分だとも言われました。

例えばエクアドルで起業やビジネスをする人は受け入れ先がないので自分の今の状況を説明しようにも受け入れ先がない以上、説得力に欠けるので私より不安になるのも無理はないです。

従って、エクアドルで起業やビジネスを行うにしてもビザのことも考えたうえで行うべきだと思います。

しかし大使館の人も基本的に全員何とか頑張って強制送還もよっぽどのことがない限りないと言われたので、言われたことを信じ続けた結果、私も何とかしたので私のことを支えてくれた在エクアドル日本大使館には大変感謝しています。

ちなみに海外のほとんどの国では日本のおもてなしの習慣がないので日本みたいに思い通りに行かないことがたくさんあります。

私もエクアドルに来てからそのようなことがたくさんありましたが、どれも基本的に何とかこなっています。

また、海外経験が豊富な人は思わぬ事態が起きてそれが何とかなるか分かることがあります。

その人たちも大変な目に遭ったことは必ずありますし、海外経験が豊富な人であればあるほどその人の「勘」が的中する可能性は高いですし、身近にそのような人がいれば困った時に是非相談するべきだと思います。

**【キトへの旅行】**

私は今月上旬にキトにある在エクアドル日本大使館で上記の学生ビザに関する用事がありましたので節約のこともあってクエンカからキトまで長距離バスで行きました。

また、キトで大使館の用事を済ませてから少し時間があつたのでキトを旅行がてら散策してみました。

その中でも特に印象的だった場所を3つ紹介させていただきます。

まずは、インドネシア料理店です。

インドネシアから遠く離れたエクアドルにもインドネシア料理店があるのかと知って本当に驚きました。

しかもレストランのオーナーもインドネシア人だったので、色んな意味で驚かされました。

そこでおすすめのインドネシア料理を何品か食べてみましたが、どれも美味しかったです。

これは個人的な感想ですが、東南アジアとラテンアメリカの料理が似ているのは気のせいかなと思いました。（どちらも油と肉をたくさん使う料理があり、マレーシアのロティチャナイとメキシコのタコスも何となく似てる感じがします）

いずれにしても今回訪れたキトのインドネシア料理店はとても良かったですし、面白い体験もたくさんできました。

次に、大統領官邸です。

キトの独立広場の隣にはカロンデレ宮殿という大統領官邸があります。

外から見ても建物は立派でしたし、正門の前には昔のヨーロッパの兵士みたいな人が二人立っていました。

日本には存在しない建物や風景を見て自分でもタイムスリップでもして異国に来たのかと思ったぐらい、不思議な気持ちになりました。

また、カロンデレ宮殿は前日に予約すれば建物内を見学できますが、今回は時間や別の用事のことも会ったので断念しました。

ちなみにそこにいた係員がエクアドルの現大統領はその時オランダに出張中と教えてくれましたが、国のトップがどのような人かも係員の説明や大統領官邸を通して身近に感じる事ができました。

最後に、赤道記念碑です。

キトから少し離れた所に「ミッター・デル・ムンド」という赤道記念碑があります。

私はエクアドルに留学する前からそこには行きたいと思っていたので、自分がやりたいことを一つ達成できて嬉しかったです。

私はそこで赤道を生かして様々なポーズを取って写真撮影したり、様々な実験をしました。

詳しい内容は書きませんが、赤道直下がどのような所か気になる人は自分の目と体で実際に確かめてみるべきだと思います。

以上ですが、これらの場所は今でも良い思い出として残っています。

しかし、キトは治安が悪いのも事実です。

タクシー強盗、スリ、ひったくり、首絞め強盗などが毎年たくさん起きていると現地の人が言うぐらい危険な一面もあります。

また、ラテンアメリカを含めた海外では日本人は金持ち、チョロい、外国語が苦手というイメージが根付いているのでアジア人が少ないラテンアメリカではただでさえ目立つので尚更狙われやすいです。

私も現地の人から英語で話しかけられてもスペイン語で話すようにしたり、怪しい人には近づかないように気を付けられるところは気を付けました。

特に前者に関しては犯人側からするとスペイン語ができなかったら警察に呼ばれずに済むのである意味安心できて格好のターゲットになります。(ラテンアメリカの警察を信用できないのも事実ですが)

私はキトで最初から最後まで色々気を付けてきたせいか、一銭も取られずに無事エクアドルの中でも治安が良いとされるクエンカに戻ることができました。

しかしキトも気を付けたら見所が多くて楽しいので、私みたいに気を付けるスキルがある程度あれば何かがあっても自己責任にはなりますが、旅行する分にはしても良いと思います。

#### 【宿舎の変更】

私はある日、クエンカに住んでる日本人に今までクエンカでたくさんの日本人を受け入れたことがあるホストファミリーがいると紹介されました。

それからそのホストファミリーに会いましたが、日本人を今までたくさん受け入れてきて日本人のことをよく知ってるせいか、すぐに打ち解けて前に一人暮らしで住んでいたコンドミニウムの契約も解約して今月からその人の家にホームステイすることになりました。

私も一人暮らししていた時は現地の人とはどのように接していけばいいかを学べたりしたので、そのようなことも踏まえて新しい宿舎に住んで今のところ問題ないです。

また、私のホストファミリーはエクアドルのあちこちに家族や親戚がいるのでその人たちもたまに遊びに来ます。

その人たちもすぐに打ち解けて繋がりが増えたり、生活が前より楽になったこともあって勉強目的で留学している私にとっても良い機会だと思います。

#### 【ラ米の豆知識・コスタリカの歴史教育】

コスタリカは自然豊かで「中米のスイス」とも呼ばれるぐらい日本人の間では評判の良い国です。

しかしこれから紹介することも事実です。

コスタリカの歴史教育ではコスタリカには先住民が今までに一度も存在したことがないと教育されていますが、これは真っ赤な嘘です。

というのも、コスタリカのディキスという場所にはスペイン人がアメリカ大陸を侵略する前に当時のディキスの先住民によって作られたとされる岩でできた大きな石球があります。

これは1930年代に発見されましたが、まだ解明されていないところも多いので謎多き遺跡と言っていいでしょう。

先住民が作ったとされる石球もですが、現在のコスタリカにも先住民の集落は田舎の方に行けばたくさんありますし、白人の割合が多いコスタリカでも問題な歴史教育のこともあって先住民に対する人種差別も酷いと言われていました。

そのこともあってコスタリカやエクアドルを含めたラテンアメリカには先住民の人たちがいくら努力しても活躍できない階級社会

のようなものが存在していますが、これは15、6世紀にスペイン人がアメリカ大陸を侵略してスペイン人が彼らを初めて見た時は野蛮人だと思ったと言い伝えられているのでその概念は何百年も経った今でも受け継がれていると思います。個人的にはコスタリカの歴史教育を改善すればこのような階級社会もなくなって国自体も安定してくると思うので、これはコスタリカの今後における課題と言っていいでしょう。



気分転換ができたせいも高山病の心配も一気に吹き飛びました。

これを機に細かいことをいちいち心配していても面白くないと思い、これからも小さいことばかりでなく大きいことを見ていこうと思えるようになりました。

そのうえ南米大陸の象徴でもあるアンデス山脈の人たちは細かいことを気にせずのんびり明るく生活しているので、彼らの姿を見ているとせっかく恵まれているのにあれこれ考え込んでたら彼らに申し訳ないと思えるようになりました。

また、普段のエクアドルでの留学生活と今回のペルーへの旅行を機にあることに改めて気づかされました。

それは日本人はメジャーな英語圏や先進国を留学先として選ぶ傾向にありますが私が留学しているエクアドル兼ラテンアメリカでも学べるものがたくさんあることです。

例えば発展途上国に行くのと貧富の格差を目の当たりにして自分がどれだけ恵まれているかがよく分かりますし気持ちの持ち様も変わります。

他にも学べることは数えきれないほどあり、英語圏や先進国への留学も悪いとは言いませんがメジャーなところだけでなく普段馴染みがないところにも目を向けるべきだと私は強く思います。

クスコに着いた翌日にはマチュピチュへのツアーに参加しました。

ツアーでは主にスペイン語/英語/日本語（通訳ガイド）の選択肢がありましたが私はスペイン語のツアーを選びました。

というのも私は今回旅行しているとはいえ勉強目的でラテンアメリカに来ている気持ちを常に忘れないようにしているので語学の上達だけでなく現地において一番本格的な言語で情報を得るためにスペイン語にしました。

そのツアーには私以外にメキシコ人とブラジル人の旅行者がいましたが、アジア人でスペイン語ができる私のことを珍しく思ったせいも相手も興味を持ってくれてすぐに打ち解けました。

また、マチュピチュは今でも謎が多い場所で未だに解明されていないこともたくさんあります。

そのことを研究する考古学者や歴史学者の他に、建物やその構造を調査するために技術士や建築家も毎日のように来ているそうです。

他にもマチュピチュに行ったことによって人間がどれだけないものねだりな生き物かがよく分かりました。

マチュピチュは世界的に有名な観光地ですが、いくら世界的に有名な観光地でも3～4時間も中を見回っていると始まって2時間後には飽きてしまい、行く前の気持ちと真逆になりました。

しかし、マチュピチュを実際に見ると写真やテレビで見ると時に絶対に味わえないことを味わえるので今回マチュピチュに行ったことは私にとって一生の思い出になりました。

それからクスコ市内や周辺の観光地を周ったりしました。

クスコは市内の他に周辺にたくさんの観光地がありますが、そのこともあって人々が経済的に豊かな生活ができるうえ治安も場所に寄りますがとても良いです。

クスコでも現地の食べ物を試食、いくつかの博物館を見学、市内の散歩などをしましたがとても楽しくて勉強のモチベーションにもなりました。

また、エクアドルに帰る日には様々な偶然がありました。

まずクスコの空港ではマチュピチュのツアーで一緒だったメキシコ人の旅行者に再会しました。

他にもリマの空港ではマチュピチュの電車に乗ろうとした時にたまたま会ったイタリア人の旅行者に再会しました。

メキシコ人（海岸近くのティファナ出身）の旅行者はクスコが高地ということもあって到着初日はあまり体調が優れなかったと言っていました。マチュピチュに行くと素晴らしい経験ができたことによって体調が良くなったと言っていました。

イタリア人の旅行者は個人的にスペイン語を何不自由なく話しているように感じましたが、その人曰くスペイン語はラテンアメリカに来てから勉強し始めたそうです。

旅行中のコミュニケーションのトラブルを減らすため、そして旅行をもっと楽しむために習得したそうですが様々な人と出会うと「このような人もいるのか」と思えて自分のためにもなります。

リマの空港で会ったときはスペインを経由してイタリアに帰るところでしたが、お互い気を付けてと言って別れを告げました。

#### 【ラ米の豆知識・メキシコの治安は悪い？】

日本ではラテンアメリカの治安は悪いという印象が強いですが、メキシコもその一つです。

しかし今回はなぜそのような印象が根付いてしまうかやその真相を紹介します。

例えばある日メキシコのとある都市の女性市長が就任翌日にバラバラの死体になって見つかったことがニュースになりました。

日本ではこのようなニュースがあったら死体の写真は見せませんが、メキシコのような国では目にモザイクはかけるものの死体の

写真はニュースでも見せるのでそれが他の国にも拡散されて後に日本にも広まって治安が悪いという印象が根付いてしまいます。

しかし私の周りでメキシコに行った人たちの話を聞いているとメキシコはラテンアメリカを知らない日本人が想像しているほど治安は悪くないと言っています。

もちろん危険な場所には近づかなかつたり最低限のことには気を付けますが、最近ではメキシコに住む日本人も増えているぐらい日本人にとっても人気な国になっています。

そのうえメキシコには近年日系企業がたくさん進出してきている他に、日本人を対象にした求人も増えています。

現地採用の給料は決して高くないですが、スペイン語ができると尚更求人が見つかりやすらしく海外で活躍したい人たちにとっても絶好のチャンスだと思います。

結論としてメキシコの治安が悪いことは事実ですが良い所もたくさんあるので悪い所を知る一方、良い所にも目を向けてみるべきです。



## No. 4

授業の正式名称は「Metodología y Técnicas para la Investigación Formativa」、日本語で「形成的研究のための方法論と技法」ですが長くてややこしいのでこれからは「Metodología y Técnicas/方法論と技術」と書きます。

この授業では先生が学生に発言させる機会が多いので、私を含めた学生たちはいつ当てられても良いように常に準備しているうえ、先生の話もしっかり聞いています。

主に地理学を絡めて社会学、哲学、人類学などの多岐に渡る学問にも触れていくので同時に様々な学問の知識が得られます。

## No. 5

この授業では世界中の多岐に渡る美術を取り扱っていきます。

授業のシステムが複雑に感じることもありますが、やることはやっているなのでこの調子で頑張っていこうと思います。

芸術作品をただ見るだけでなく、その作品に込められた作者の思いや作られた動機などもまとめなければいけないので慣れない作業ということもあって大変な感じがします。

それでもそのお陰で自分が今までに気付かなかったことを学べるのでこの授業を履修する価値はあると思います。

## No. 6

授業の名前の通り、今実際に問題化している出来事に触れる授業です。

授業初日でも先生が「今の世の中は問題に溢れている」と言いましたが、その後も話の続きを聞いて「言われてみればその通り」と思いました。

これからもその日に聞いた表面の中身を探ってとりわけ分析力や論理的思考力を身に付けていきたいです。

## III. 生活編

## 【新学期のスタート】

今月からクエンカ大学の新学期が始まりました。

入学式やそれに関連したセレモニーもあったので振替授業として参加することも多々ありました。

しかし、前学期のように今回もまた履修登録のシステム上の問題が発生し、学部の授業は9月16日に開始する予定でしたが9月23日に延期になりました。（韓国語の授業は大学付属語学学校のものなので9月16日に始まりました）

前学期の時は色々な意味で焦りましたが今では現地の生活に慣れたこともあり、これ以外にも思い通りにならないことを星の数ほど経験してきたので焦るどころか何とも思いませんでした。

しかしこの経験は将来臨機応変な対応を求められる時に役に立つと思うので、今でも似たような事態に遭遇しても適当に受け流しています。

学部の授業では生活に慣れてきたこともあって以前より多めに授業を履修することにしました。

授業によって英語とスペイン語と韓国語を使い分けるので不思議な気持ちになる一方、モチベーションも上がるのでこのやり方を選択して今のところ後悔はしていません。

また、授業が多いこともあって課題も当然多いですが、やることをやっていると他のことが気にならずに済むので今のところ現時点の状況で満足しています。

この調子で今学期も悔いなく頑張っていこうと思います。

## 【日本人と同居】

私が8月下旬にペルーからエクアドルに帰ってくる数日前にエクアドルでパナマ帽の編み方を学びに来た日本人が私と同じ宿舎に泊まり始めました。

その日本人が来るという知らせを初めて知ったのもその人が来る1、2週間前だったのでその時は突然過ぎて焦りました。

それでも会ってからすぐに仲良くなれたので今では良かったと思います。

初めて会ってからはその人にスペイン語を個別指導形式で教えていますが、教え方が上手とよく言われるのでこの調子で相手を指導するスキルやコツをたくさん身に付けていこうと思います。

また、テストも自分で作っていますが内容が難しいとよく言われるのでもう少し易しくしようか考えている所です。

私も大学に入学してからスペイン語を勉強し始めましたが、当時の自分がどのようにスペイン語を教わっていてどう勉強していた



かを授業をする度によく思い出します。

しかし、その日本人は1カ月後に別の宿舎に移ったので同居していた時期があつという間に過ぎたように感じました。それでも様々なことを収穫できたのも事実なので今思えば良い経験だったと思います。これを機に、「何事も経験」だと思えるようにもなりました。

#### 【クエンカ大学の新しい留学生】

9月は留学先の新学期ということもあって新しい留学生が来ました。

しかも9月は留学生がたくさん来る時期でもあるので国籍も豊かでした。(前回と同じくほぼ全員ヨーロッパか他のラテンアメリカ諸国から来た人でアジア人は0です)

私も自分が留学生だということもあって彼らと交流する機会がたくさんありました。

また、彼らと話す時に留学して得た知識を通して話すこともあります。その中には現地の人が知らないこともあります。

例えばメキシコ人の留学生数人にメキシコの北部に位置するメヒカリはメヒコ(スペイン語でメキシコ)とカリフォルニアの頭文字を繋げて「メヒカリ」という名前になったことを伝えると全員から「知らなかった」と言われました。

他にもたくさんありますが、何かをたくさん勉強して習得すると話題のきっかけにもなるんだと感心しました。

これは相手からすると自分の国のことをよく知っていると認識することでもあるので、喜んでくれることも多いです。(話過ぎると却って自慢になるので所々話題を変えるのもコツですが)

この調子でエクアドルだけでなく、他の国の人との繋がりも増やし続けていきます。

#### 【パナマ帽の工場インターンシップ】

今月下旬からエクアドルのクエンカで知り合った日本人が働いているパナマ帽の工場インターンシップを始めました。

しかし、私の本業の留学先の授業やお互いの都合も踏まえて週に1回インターンシップに行くような形で工夫して行っています。

現時点で主に客観的に見た帽子の購入サイトの長所や短所(もしくは改善すべき点)の分析、エクセルでの作業、出荷する帽子の数を数える作業などを行っていますが特にエクセルの作業は職員の人でも難しいと言うぐらい大変な作業なので、私がそれを終えた時は本当に助かったと言われました。

私は留学している間に自分のチャレンジ精神とハングリー精神を生かして今回のインターンシップでも自己分析を兼ねて頼まれたことは何でも引き受けるようにしています。

この経験は自分でも貴重な経験だと思いますし、インターンシップを受け入れて下さる方々にも本当に感謝しています。

この調子で引き続きインターンシップも頑張っていきます。

#### 【どこでも生きる趣味】

人間誰しもその人の趣味がありますが、これはどこに行っても生きます。

私も趣味は多い方ですが、今回はその中でも料理とカラオケを紹介したいです。

まず前者の料理に関して言いますと、私は決して料理が上手な訳ではありませんが何かを作っている最中はそれに没頭できて他のことが気にならないので気分転換にもなります。

エクアドルに来てからも様々な料理を作ったことがありますが、例えばパスタをよく作ります。

実は水は標高が上がると沸点が変わるのでパスタを作るうえでも時間がかかります。

中にはそのせいでパスタが不味くなるという人もいますが、私は頻繁的に作るので正直不味いは言い過ぎかなと思います。(実際時間はかかっても問題なく美味しいパスタが作れます)

他にも料理アートによく挑戦しますが、それを友達に見せるとよく上手と言われます。

私は絵を描くことも趣味なので、それが見事に融合して料理アートのような趣味も生まれるのかもしれない。

次に、後者のカラオケはカラオケと言っても少し特殊です。

それはスペイン語でカラオケをするからです。

私はエクアドルに留学する前でもスペイン語で4曲歌詞を見ずに歌えましたが、この月間報告書を書く時点でも10曲以上スペイン語で歌えるようになっています。

しかし、私は歌音痴でもあるので人前では基本披露せず、自分だけの楽しみとして留めています。

今でもスペイン語の新しい曲に挑戦していますが、この調子でたくさん歌えるようになりたいです。

#### 【ラ米の豆知識・中南米の日系移民】

今から100年以上前の日本は貧しい国でした。

ちょうどその頃にラテンアメリカの多くの国が日本に対して農業の求人を募集していることを伝えて主にメキシコ、ペルー、ブラジル、ボリビアなどの国に多くの日本人が移民し始めました。

そのお陰で日本では経済的に苦しい生活をしていた日本人たちもラテンアメリカに移住して豊かな生活を送れるようになりました。

。

これは私たち日本人からしたら感謝すべき恩恵です。

しかし、今日本は戦後から独自の経済成長を遂げて先進国の一つになっていますが私は現代の多くの日本人はラテンアメリカの恩恵どころかラテンアメリカに対して無知なところがあると思います。

そのうえ、「治安が悪い」、「不衛生」、「(主にラテンアメリカの駐在員の場合)仕事で役に立たない」といった悪口もよく聞くので個人的にはとても悲しく感じます。

確かにどこに行っても悪い所はありますが、良い所にも目を向けるべきだと思います。

例えばラテンアメリカにはマチュピチュやウユニ塩湖のような世界的観光地があったりビーチや森林が多くて自然豊かなところがあるのはとても良いことですが、今回取り上げている「日系移民」は特に日本とラテンアメリカの繋がり深さを観察できるものです。

私が今いるエクアドルを含めたラテンアメリカには日本に行きたくても行けない人がたくさんいるので自分でも彼らのために少しでも協力できたらいいのにとよく思います。

自分の将来の夢が確定したわけではありませんが、やはり誰かのために貢献できる仕事は自分に向いてる可能性が高いと信じています。(ラテンアメリカと関わること仕事であれば尚更)



## No. 4

今月は先生が授業に来なかった日が多く、教室外で課題をやるが多かったです。要約文やグループワークが主な課題で量も多かったですが、とりあえず指定された通りに終えて無事提出できました。これからも課題がたくさん与えられる見込みですが、授業ではいつも通りの調子で頑張って課題もきちんとこなせるようにしていきたいです。

## No. 5

この授業では形式に慣れるのが大変で、課題の内容を勘違いして提出したこともありましたが、先生は私が留学生で頑張っていることを理解しているお陰か、許してくれました。私もこれに応じて慣れるのに時間はかかっても努力することはこれからも絶対に続けようと思えるようになりました。この先どうなるかは分かりませんが、授業内で色々吸収して今後にも役立てられたらと思います。

## No. 6

今月は授業の課題を提出するアプリにシステム上の問題があったり、色々思い通りに行かないことが多くて課題を上手く提出できないトラブルもありました。先生に事情を話したところ、状況を理解してくれて時間は若干かかったものの、与えられた課題もきちんと提出できました。授業内容は普段通り、今の世の中で問題化している出来事に触れてそれを元にディスカッションやグループワークをしていく形式です。

### III. 生活編

#### 【エクアドルの暴動と留学先の授業】

今月上旬から2週間ほどエクアドル全体でデモや暴動が起きました。主な原因はエクアドルのガソリン代に対する補助金制度が廃止されてガソリン代が高くなったことです。他にもエクアドルではここ最近ベネズエラの難民が増えたことによって「物価が上がる」、「最低賃金が低下」、「失業率が上昇」などと言った問題が増えています。これを通した個人的な考えとして、エクアドルは旅行などをする分にはとてもおすすめな国ですが、働く面(とりわけ現地採用)では今後のことも考えてあまりお勧めできないと思います。

また、これが原因で国内の交通機関が運航中止になって、例えばクエンカ在住の人がその時たまたま首都のキトにいてバスが運行していないせいでクエンカに戻れないという事態も起きました。ちなみに私はその時ずっとクエンカにいて不要不急の外出を控えるなどの工夫はしました。中には現地の人や留学生の友達でデモに行き行って戦争を味わっているかのように楽しんでいる人もいました。その人たちはともかく、私はラテンアメリカで数少ない日本人(アジア人)でただでさえ目立つのでそのような真似は絶対にしませんでした。

また、上記のことがきっかけでクエンカ大学の全授業は丸2週間休講になって最近発行された新しい大学カレンダーも以前のものとかなり変わりました。当然焦ったこともありましたが、エクアドルの大統領がその時の状況がよろしくないと思ったせいか、ガソリン代の補助金制度を廃止する政策を一旦取りやめて国の治安も何事もなかったかのように元に戻りました。何の騒ぎだったのかと思いましたが、とりあえず私は何の被害にも遭っていないおらず無傷なので何とかなって(?)良かったです。留学先の授業も再開した時は久しぶり過ぎて最初は緊張することもありましたが、割と早く普段のペースを取り戻せたのでこの調子で本業を頑張っていきます。

#### 【友達の誕生日会と高地でのアルコール摂取】

今月はメキシコから来ている留学生の誕生日パーティーが何回かあったので私も参加することにしました。彼らはメキシコ人ということもあってアルコール度数が高いテキーラをたくさん飲んだり、誕生日を迎える友達の顔に誕生日ケー

キを投げたり、ラテン風のダンスをしました。  
今回この中で特に取り扱いたいのは高地でのアルコール摂取です。

まず、アルコールは高地で摂取すると普段より何倍も回りやすくなります。  
エクアドルのクエンカも標高が2500m近くあるので十分高地である以上アルコールも回りやすいです。  
また、これには注意が必要です。  
高地に行く中には高山病を発症する人がいますが、そのような状態でアルコールを摂取すると死ぬこともあるそうです。  
なので仮にラテンアメリカ特産のアルコール飲料を試飲してみたい気持ちがあっても人によってはまずは身体を高地に慣らす必要があります。

ちなみに私の場合はエクアドルに来てから一度も高山病にかかったことはありませんし、富士山(標高3776m)より標高が高い所にもよく行ったりしますが既に高地に慣れてるせいか一度も発症したことはありません。(これも個人差があります)  
テキーラの他にビールやワインと言ったアルコール飲料も最初は何だかんだで飲むのに抵抗がありましたが、今では話題や状況を盛り上げるには良い材料だと思えるようになり、アルコール飲料が好きではなくても段々積極的に飲むようにしています。(もちろん飲み過ぎには気を付けていますが)

#### 【留学して気付いたこと】

日本では日本人は海外に行くとなると日本人同士で固まりやすい傾向にあるとよく聞きますが、実はこれは日本人に限る話ではことに最近気付きました。  
例えば私の留学先のフランス人やメキシコ人の留学生が同じ国籍の人たちと同居している例があり、どこかに買い物をしたり旅行する時も基本的に彼らと一緒にいます。  
個人的には上記の行動が自分の国にいることと同じだと思えるので彼らには何も言いませんが反面教師にしています。

一方、エクアドルは国全体で日本人が400人もいないうえ、私は今年の3月と6月には一度も日本人に会いませんでした。  
そのため日本語を一切使わない日も普通にありまして、スペイン語を上達させる上ではある意味持ってこいの環境だと思います。  
確かに日本人が少なくて過酷に感じることもたまにありますが、その時は「なぜ今自分はエクアドルに留学しているのか？」と自分に問いかけるようにしています。

#### 【ラ米の豆知識・チリとボリビアの外交関係】

ボリビアとチリは国境を面し合っている隣同士の国です。  
しかし、これらの国の間では国交が結ばれていません。  
というのも1879~84年にかけてペルーとチリとボリビアの間で起きた太平洋戦争の影響が今も残っているからです。  
これは南米大陸の太平洋岸の資源地帯を巡る戦争であり、これら3か国の主要鉱石が硝石であったため、硝石戦争とも呼ばれています。

この戦争は結果的にチリが勝利しました。  
それから時間とともにチリとペルーの間の国交は同国間に鉄道が設置されるまでに外交関係が回復しました。  
一方、チリとボリビアの間の国交は今でも回復しておらず、両国における天然ガスの輸出用パイプラインを隣同士の国にも関わらず、アルゼンチン領土を越えてはるか大西洋側に伸ばしています。

日本も今から70年以上前に第二次世界大戦で被爆した国ですが、それから独自の経済成長を遂げて今では先進国になっています。  
終戦直後は対戦国との外交関係が悪くなったといったことはありましたが、今ではこれらの国を含めた多くの国々と国交を結んでいます。

私は世界唯一の被爆国出身の日本人としてチリがボリビアと外交関係を100年以上経った今でも結ぼうとしないのは当たり前ですが良くないと思います。  
また、時代や期間は関係なく、戦争は絶対に起きてはいけなくと強く思います。  
日本国家も数年前に国連の核兵器禁止条約に署名しなかったことが話題になりましたが、争いが起きたところで良いことが生まれるどころか悪いことしかありません。

私も今の留学先や今まで生きてきた中で嫌だと思った人はたくさんいます。  
それでも更なるトラブルを起ささないために硝石戦争ではありませんが、私は争いを起ささない人を一人でも増やすためにまずは

自分がそうしないようにしています。

戦争もやはり争う人がたくさん増えることで起きることなので、今自分が心がけていることが果たしてためになることかはわかりませんが、無駄にはならないと思うのでこれからもこのような姿勢を忘れるつもりはありません。



内容が若干手強かったこともあって試験終了の時間ギリギリにテストを終えましたが、全力は尽くしたので後悔はしていません。

#### No.5

今月は主に建築、彫刻、美術の3つを取り扱ってそれらの様々な学問から見た特徴をまとめることが多かったです。また、先生がたまに予定と違う課題を出すことがあり、私を含めたクライメイトが驚くこともよくありましたが何だかんだで結局何とかできました。

この授業でも今月末に中間試験がありましたが、とりあえず最低限のことはやったので悔いのない結果が出ることを祈っています。

#### No.6

今月は外で円になって学生全員でディスカッションをしたり、先生が授業中に「〇〇とは何ですか？」と質問する時に自分の意見を述べたりしました。

月末には中間試験がありましたが、この授業の中間試験の形式は少し特別で試験日(?)前日に与えられた課題をその日に提出して先生から若干コメントをもらう形でした。

不自然な感じもしましたがやることはやったのでとりあえずホッとしています。

### III. 生活編

#### 【留学先の授業】

今月末は中間試験があり、対策や準備で何かと大変でしたが一通り終わったらとても安心しました。

また、留学先の授業だけでなく何事も勉強だという意気込みで今の留学に臨んでいるので社会人になる上でのスキルも今では留学当初より何倍も身に付いていると思います。

この調子で授業で大変なことがあっても今後のことを踏まえて挫けず努力し続けていきます。

#### 【ボリビアへの旅行】

10月下旬から11月上旬までボリビアに一人で行きました。

また、首都のラパスでボリビア日系移民を調査して留学先の授業の一環としてプレゼンの発表をする予定でしたがこの時ちょうど現地で大統領選挙の不正疑惑といったことが原因でボリビアの至るところで抗議活動があつてボリビア日系移民の歴史や資料を取り扱っている資料館も閉まっていたので断念せざるを得ませんでした。(この事情は授業の担当教員に伝えてボリビア日系移民とは別の内容のプレゼンをすることにしました)

また、ボリビアでは上記以外にウユニ塩湖やチチカカ湖にも行きました。

ウユニ塩湖ではラッキーなことに真っ白な湖と日本でも有名な鏡張りの両方を見ることができました。

この経験は8月に行ったマチュピチュのように人生に何度もない感動を味わえました。

この時に起きていた抗議活動で途中で危険な目に遭わないかという心配はありましたが最終的に無事に行くことができたので今ではとても満足しています。

他にもチチカカ湖では湖の上を走る船に乗って湖の広さ故にあたかも海の上を走っているような感じがしました。

というのもチチカカ湖は日本の琵琶湖よりも12倍以上面積が大きく、湖は何と富士山(3776m)より高い標高3800m近くに位置しています。

昼食ではチチカカ湖で獲れたマスを食べましたがこれも美味しかったです。

とにかくインパクトの大きいものばかりで驚くことが多かったが今思えばとても良い経験になったと思います。

そして首都のラパスも探索しましたが、ラパスは世界一標高が高い首都(約3600m)ということもあり、たくさん歩くと普段より息切れしやすかったので坂道を上るのがよく億劫に感じました。

しかし標高が約2500mのクエンカに戻ると日本からしたら十分な高地とはいえ、ラパスから帰ってくると個人的には高地に慣れてるせいか低地に感じました。

また、ラパスでは都市全体を回っている市民にとって身近な公共交通機関であるロープウェイによく乗りました。

これはルートによりますが安いチケットだと日本円でたったの50円でロープウェイから見たラパスの景色はとても素晴らしかった



です。

最後にボリビアのことをざっくりまとめますと、首都付近にあるエル・アルト国際空港は標高約4000mに位置していてラパスに着いてから高山病を発症する人も少なからずいるそうです。

従って、私のように高山病を全く発症しない人もいますが心配に感じる人は事前に対策や準備をすることをお勧めします。

現地でも高山病に効く薬やコカの葉やココ茶があるのでそれで対策することも可能です。

また、コカの葉は麻薬のコカインの原料でもあります。ココ茶のように飲む分には麻薬のような作用は全くありません。(ただし日本にコカの葉を持ち帰ると重い刑が罰せられる可能性がある。その辺りは注意が必要です)

#### 【留學生活において実践していること】

私の留學生活は残り僅かになりましたが、残り少ない留學生活でも様々なことにチャレンジするようにしています。

例えば得意なことを伸ばす一方、将来のことも考えて苦手なことにもチャレンジするようにしています。

というのも社会に出たら自分が苦手とする場面に必ず遭遇するのでそのようなことに少しでも慣れるために嫌だから逃げるのではなく必要だと感じたらそれがたとえ自分の苦手なことでもチャレンジするようにしています。

そうしているうちに自立する上での様々なスキルが身に付くので辛いことがあってもとても自分のためになっていると思います。

また、本業である留學先の授業以外に自主学習、人脈作り、旅行なども実践的に行っています。

しかしこれらは本業に専念した上で行っています。

というのも上記のことに専念し過ぎて本業が疎かになっても後から困ることを既に見据えているのでもし本業でやるのがたくさんあって上記のことができない場合は敢えて他のことを忘れて本業に専念するようにしています。

もちろん中には留學中に本業だけに専念する人もいますが、これは私にとって一番適した留學スタイルだと思うので周りの留學生がどうしてようと最終的には自分だけの留學なので周りに惑わされず自分だけにあったスタイルで留學に臨んでいます。

#### 【ラ米の豆知識・ラテンアメリカの人は細かいことを気にしない(?)】

日本ではラテンアメリカの人は細かいことを気にしないとよく言われます。

例えば私が今いるエクアドルでも女性が外出する際にスッピンで出かけることがよくあります。

日本で同じことをしたら恐らく日本人の国民性が故に周囲から変な視線をよく浴びますが、ラテンアメリカではそのようなことがほとんどありませんし逆に派手な化粧や格好をすると却って悪い人に狙われて危険な目に遭う可能性が伴います。

一方、ラテンアメリカでは大統領選挙やその国の政治家による新しい政策が推進された時にデモがよく起きます。

しかし日本では例えば税金が上がったり数年前にスーパーの袋が有料化された時にデモどころか仮にそのようなことがニュースになっても「あ、そう」とあっさり受け流してしまうところがあります。

なぜこのようなギャップが生まれるかはともかく、個人的にラテンアメリカの人は必ずしも細かいことを気にするのではなくむしろ考え方や価値観が日本人のそれらと違うだけだと思います。

日本人も細かいことを気にして完璧主義な人だとよく捉えられがちですがこれも必ずしもそうとは限らないので結論付けるとどの国の人も同じ人間である以上、国や人が異なるため考え方や価値観が違ってても何かを気にすることは必ずあるのでこの違いを受け入れて理解することが異文化理解をする上での第一歩かもしれません。

また、恐らく国や人関係なくどの家庭にもその家庭なりのルールがあるのは今回取り扱った内容の一部でしょう。



今月は主に教会の構造や教会の中にある芸術品について取り扱いました。  
 他にも最近クエンカ大学でリニューアルオープンした大学付属の博物館に授業の一環として訪問しました。  
 この訪問は授業で学んだことをアウトプットする機会にもなったのでとても良かったです。  
 この調子で授業外でも芸術品を見る機会があれば学んだことを思い出しながら様々な分析をして授業だけでなく自分の生活にも生かせたらと思います。

#### No.5

今月はグループワークが多く、グループ内で意見交換をしてから先生に自分たちの意見を提案していく形で授業が進みました。  
 課題もグループに分かれてインターネットで提出する形式で、自分と相手の都合がなかなか合わず課題があまり進まないこともよくありましたがどれも期限内には提出できたのでとりあえず何とかになりました。  
 今でも若干戸惑うことはあるものの、今の留学生活で柔軟性を身に付けることができたので焦ったことは一度もありません。

#### No.6

前回のレベル1とレベル2に引き続き、今月からレベル3の授業が始まりました。  
 今月は主に韓国語の丁寧表現や過去形を学びましたが、その一方で韓国にあるものや韓国の文化にもよく触れました。  
 私も昔韓国に行ったことがあります。このことを機に当時韓国に行って気が付かなかったことがたくさんあったことに気付かされてもし次回行く機会があれば自分で習得した韓国語を実際に使うだけでなく授業で触れた韓国で有名なものにも更に目を向けてみようと思います。

### III. 生活編

#### 【留学先の授業と今までの留学生活を振り返って】

あっと言う間に時が流れ、エクアドルのクエンカに来てから10カ月経ちました。  
 来たばかりの時は習得して間もないスペイン語で行われる学部の授業についていくので精一杯だったものの、気が付いたら今では難なくついていけて本業以外にも様々なことに挑戦してその分多くのスキルが身に付いているのが自分でも大いに実感できます。  
 今までの留学生活を振り返ってみて留学中は楽しいことがたくさんありましたが大変なことも少なからずありました。  
 詳しい内容は省きますが、今思えば辛い経験もしたからこそ今では日本にいた時より視野が何倍も広がって楽しく思えることも増えて気が付いたらポジティブシンキングにもなれてるんだと思います。

本業の学部の授業では元々ラテンアメリカの歴史に興味があったので歴史学を中心に学ぶ予定でしたが生活に慣れて興味の対象も増えてきたため後半は歴史学だけでなく韓国語、英語、哲学、芸術学、地理の授業も履修して本業に専念する一方、今の留学中にしかできないことにもたくさんチャレンジするようにしています。  
 エクアドルのクエンカでの留学生活も残り僅かで時間が限られているので最後まで悔いなく過ごして日本に帰国してからも引き続き自分がかつて関心がなかったものにも目を向けてたくさんすることに挑戦して自分の糧にしていきます。

#### 【ペルーのマンコラへの旅行】

今月中旬にマンコラというペルー北部のリゾート地に友達と一緒に旅行に行きました。  
 ちなみにペルーのマンコラはエクアドルのクエンカから長距離バスの往復でたったの36ドルなのでとてもお得に外国に行くことができました。  
 マンコラはサーファーの聖地と呼ばれるだけあって海がきれいでセビーチェをはじめとする魚介類も美味しかったです。  
 また、現地のツアーにもいくつか参加して野生のウミガメを見たり美容効果がある泥が入った温泉に入ったりしてとてもいい思い出になりました。

しかし、一つトラブルが起きました。  
 それはマンコラからクエンカまでの帰りのバスで私たちの席がなぜか登録されていなかったことです。  
 マンコラに来る前にクエンカでももちろん全員分の往復チケットを購入しましたが、私たちはバスの床を席代わりにするように言われてとても酷い扱いを受けました。  
 クエンカには無事着いたものの、その後すぐにバス会社に全員で直接クレームしに行きました。  
 また、この時私たちのうちの一人が弁護士の友達を連れてきており、弁護士からもバス会社の担当部署の部長に電話してもらい、

最終的に私たち一人ひとりに8ドル返してもらうことになりました。

結局このことはとりあえず一件落着いたので安心しました。

そしてこのことを別の日にとある日本人に話したところ、なぜか大いに驚かれました。

というのも今回の件はよく考えたら日本では絶対にありえないことで一般の日本人からしたらかなりレアなことだということが分かったのです。その時の大きな話題にもなりました。

また、私自身はマンコラでこのような目に遭ったものの、これを機に恐らく現地の生活によっぽど溶け込んでて本来の日本人(ないしは留学する前の自分)の感覚が麻痺してたことに気付かされました。

結論として色々あったものの、今思えば良い経験になったと思います。

#### 【コロンビアへの旅行】

今月下旬にはコロンビアの首都ボゴタに行きました。

元々日本で知り合ったコロンビア人の友達にボゴタを案内してもらおう予定でしたが相手が急に忙しくなったりして予定の多くがキャンセル/変更になりました。

それでも彼が別の友達を何人か紹介してくれた彼らと一緒にボゴタを観光しました。

ちなみに私が会った彼らの多くは日本語が少し話せてスペイン語と日本語が交ざった会話もよくしました。

また、ボゴタは標高約2600mの山奥に位置していて高山病にかかる人もいるにも関わらず、私は多い日で気が付いたら8時間近く歩いていました。

高山病らしき症状を全く感じない中、良い高地トレーニングにもなったと思います。

ちなみにクエンカも標高が約2500mありますが高地で生活すると食欲も落ちるため場合によってはダイエットも可能だと思います。(実際私も留学前に比べてかなり痩せました)

ボゴタでもペルーのマンコラのように様々なことがあったものの、南米有数の世界都市と言うだけあって数多い立派な建物以外にもイケメンと美人、エメラルドをはじめとする宝石、色とりどりの芸術品、美味しい果物やお洒落な喫茶店が私を魅了させてくれてとても良い思い出になりました。

また、コロンビアはエクアドルの隣の国にも関わらず違うところがたくさんあったためカルチャーショックらしきものもたくさんありました。(例えばコロンビアには街中を走るバーが中に入ったトラックがありますが、エクアドルにはありません)

それでも個人的にはこれもとても良い思い出と勉強になったと思います。

#### 【ラ米の豆知識・日本とラテンアメリカは関係が浅い(?)】

日本ではラテンアメリカのことをよく知っている人が限られているぐらい馴染みの薄い地域です。

しかし、実際はとても関りが深い地域です。

というのも日本はラテンアメリカの全ての国と国交を結んでいてJICAや(国によりますが)日系企業の進出などで経済成長にもたくさん貢献しています。

他にもペルーでは過去に理論上純粋な日本人であるアルベルト・フジモリ大統領を輩出しておりペルーをはじめとするラテンアメリカは日系移民が多い地域でもあります。

また、ジャガイモ、トマト、トウモロコシ、サツマイモ、トウガラシ、ピーマンなどと言った野菜は日本の食卓でもよく並びますがこれらはなんと全てラテンアメリカ原産です。

従ってラテンアメリカは日本からかなりの恩恵を頂いている一方、私たち日本人もラテンアメリカから数多くの恩恵を頂いていることがよく分かります。

私もラテンアメリカの中で特に日本にとって馴染みが薄いとされているエクアドルに留学している間にペルー、ボリビア、コロンビアに行きましたがどの国に行っても日本から遠く離れているとはいえTOYOTAやSONYをはじめとする日本のものをよく見かけます。

このようなことを何度も直に見ると益々興味が湧いて良い意味で食欲さが尽きません。